

THROW

Moc Moc \ Professional Hair Color

THROW COLOR
PRODUCTS & THCHNICAL MANUAL



THROW OFFICIAL SITE
<http://throw-web.com>

スロウヘアカラー 検索

MoltoBene
PROFESSIONAL

株式会社モルトベネ 東京都新宿区西早稲田 2-20-15
テクニカルサポートセンター 03(3204)8111



INDEX

004	ABOUT THROW COLOR
005_007	FEATURE POINT
008_009	COLOR CHART
010_011	COLOR HUE
012	BASIC KNOWLEDGE
013	TO NE DOWN
014_015	COLOR CONTROL
016	COMFORT COLOR
017_020	HAIR ASSESSMENT
021	PROCESS
022_023	CASE STUDY

ABOUT THROW COLOR

こだわりのアッシュを、
1本で。

プロフェッショナルヘアカラーの本質は「思い通りの発色」をかなえること。

THROW は、求める発色をたった1本で表現するこだわりのニュアンスカラーシリーズです。

アッシュをはじめとする、表現が困難だったクールカラーも

内部からしっかりと染め上げます。それでいて、生まれ持った髪色のように自然な質感を実現します。

THROW COLOR



スロウカラー - FASHION
1剤 / NET.100g / 全43色
[医薬部外品]



スロウカラー - COMFORT
1剤 / NET.100g / 全36色
[医薬部外品]



スロウ オキシ3%
2剤 / NET.1000mL
[医薬部外品]



スロウ オキシ6%
2剤 / NET.1000mL
[医薬部外品]

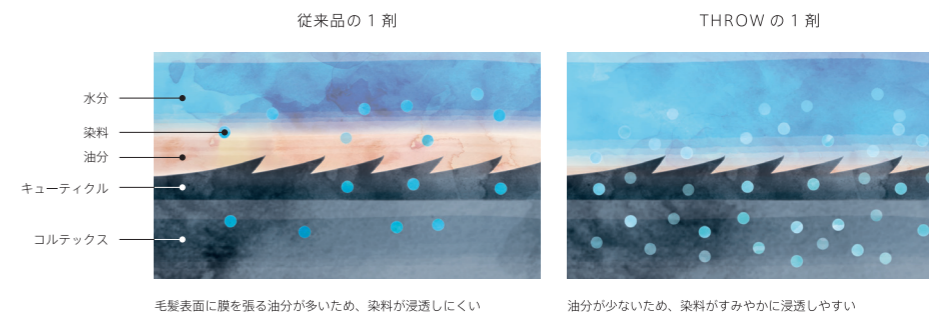
※使用上の注意をよく読んで、正しくお使いください。 ※ご使用の際は毎回必ず皮膚アレルギー試験（パッチテスト）を行ってください。

FEATURE POINT

髪の内部からクリアに発色する「WATER RICH CREAM 処方」

1剤クリームの主成分は水分と油分でできており、美しいリフトカとクリアな発色の鍵を握る「酸化染料」と「アルカリ剤」は水分のほうに含まれています。そこで THROW は、1剤における水分の割合を最大限にし、油分を大幅に減らす「WATER RICH CREAM 処方」を採用。油分は、毛髪への塗布のしやすさや仕上がりのなめらかさをつかさどる反面、毛髪表面に膜を張り、「酸化染料」や「アルカリ剤」の浸透を妨げる性質も持っています。油分の量を利点のみ活かせる最低量に調整することで、染料が水に乗って確実に浸透し、髪の内部からクリアに発色する仕組みを実現しました。

* FASHION COLOR：約31%水分量増 / COMFORT COLOR：約28%水分量増（当社比）



毛髪表面に膜を張る油分が多いため、染料が浸透しにくい

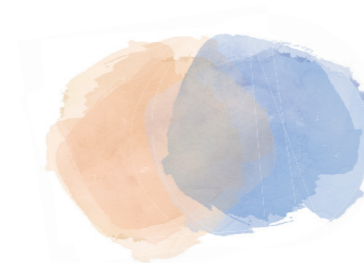
油分が少ないため、染料がすみやかに浸透しやすい

* 図はイメージです。

徹底的に赤味を排除したベースカラー設計

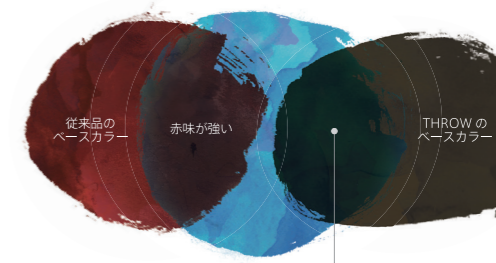
赤み、濁り、暗さ…。理想のクリアな発色を実現するため、これらの不要な要素をそぎ落としたベースカラーを開発しました。FASHION COLOR は「シアープルー」と「シアープラウン」を掛け合わせたベースカラーを採用。淡い色をヴェールのように何層も重ねることで、透明感と深みが生まれ、寒色の美しさを引き立てています。COMFORT COLOR は、赤みのない「こげ茶」と「ブラックチャコール」を掛け合わせたベースカラーを採用。白髪と黒髪のコントラストを整えながら、ブラウンの色調と明るさの表現領域を広げています。

FASHION COLOR のベースカラー



シアーなカラーを何層も重ね、透明感と深みを両立

COMFORT COLOR のベースカラー



「こげ茶」と「ブラックチャコール」を掛け合わせ、赤味に頼らず白髪を美しく染めます

* 図はイメージです。

HAIR COLOR CONCEALER

ヘアカラーをして数週間後くらいから気になる、顔の周りや分け目の伸びてきた白髪を簡単にカバー。次回来店まで快適にお過ごしいただけます。

スロウヘアカラーコンシーラー
(ライトブラウン レギュラー)

[毛髪着色料] コンパクトケース / 専用パフ入り・11g ¥2,800(税抜)

ヘアカラーコンシーラー本体



化粧箱



「DUAL SILK COMPLEX」配合で、やわらかなツヤとしなやかさのある髪へ

キューティクルケア成分「DUAL SILK COMPLEX」* 配合。髪表面にヴェールをかけるように 2 種のシルク成分でコートします。
やわらかなツヤをもたらし、抜け感のあるシアーな質感に仕上げます。

*加水分解シルク液、(加水分解シルク/PG-プロピルメチルシランジオール) クロスポリマー



髪をすこやかに整える「オーガニックオイル & ボタニカルエッセンス」配合

5 種のオーガニックオイル¹と、8 つのボタニカルエッセンス²を配合。
植物成分が髪に潤いをあたえます。



¹・シアバター(シア脂)、オリーブオイル(オリーブ油)、ホホバオイル(ホホバ油)、ローズヒップオイル(ローズヒップ油)、グレープシードオイル(ブドウ種子油)

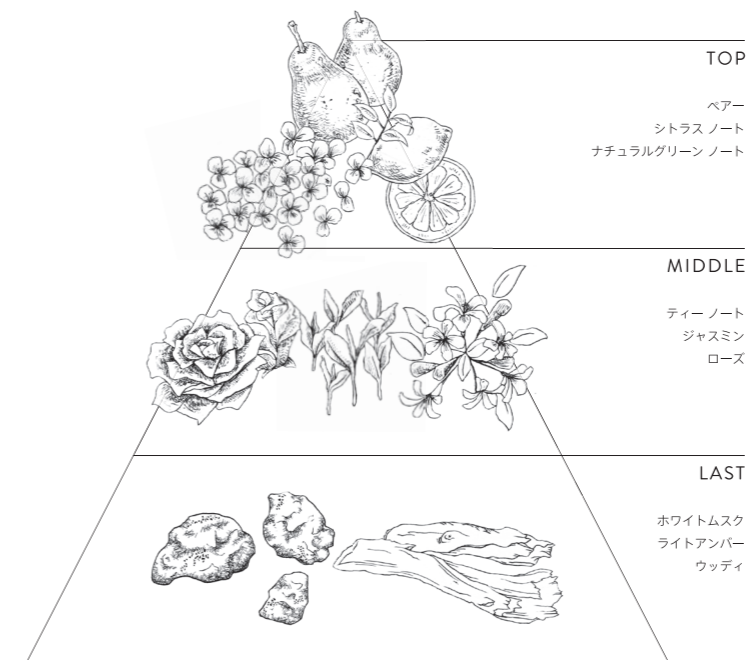


²・イラクサエキス、フキタンポポエキス、スギナエキス、ローズマリーエキス、セージエキス、セイヨウノコギリソウエキス、ミツガシワエキス、シラカバエキス(混合植物抽出液・13)

さりげなく香る、心地よいフレグランス

エアリーな印象のフレッシュフローラルは、カラーリングしていることを忘れてしまうようなさりげなさ。あらかじめカラー剤特有の臭いをマスキングすることで「ソフトな香りのカラー剤」が実現しました。やさしく香るので、カラーリング中も帰宅後も、快適にお過ごしいただけます。

フルーティでさわやかなシトラスグリーンから、ジャスミンやダマスクローズのフローラル、ライトアンバーやホワイトムスクのやさしい甘さへ移ろっていきます。



FASHION COLOR

地の髪色をコントロールし、根本から毛先まで1本で濁りのないニュアンスカラーを実現する FASHION COLOR シリーズ。
透明感や柔らかさなど、質感までも美しく仕上げます。

Hue Lv	N ナチュラル	A アッシュ	Mt モノトーン	M マット	Be ベージュ	B ブラウン	P ピンク	V ヴァイオレット	C クリア
14	N/14	A/14							C/14
12	N/12	A/12		M/12		B/12			
10	N/10	A/10	Mt/10	M/10	Be/10	B/10	P/10	V/10	
9	N/09	A/09							
8	N/08	A/08	Mt/08	M/08	Be/08	B/08	P/08	V/08	
7	N/07	A/07	Mt/07	M/07	Be/07	B/07			
6	N/06	A/06	Mt/06	M/06	Be/06	B/06	P/06	V/06	
4	N/04								
OTHERS		Blue		Green					C/00

実際の染め上がりの色は、地毛によって異なります。

COMFORT COLOR

白髪をカバーしながら、確実に美しい発色に染めあげる COMFORT COLOR シリーズ。
従来の白髪染めのイメージを払拭するニュアンスカラーを揃えた、スタイリッシュな世界観です。

Hue Lv	CN コンフォートナチュラル	CA コンフォートアッシュ	CM コンフォートマット	CBe コンフォートベージュ	CB コンフォートブラウン	CP コンフォートピンク	CC コンフォートクリア
12							CC/12
10	CN/10	CA/10	CM/10	CBe/10	CB/10	CP/10	
9	CN/09	CA/09	CM/09	CBe/09	CB/09	CP/09	
8	CN/08	CA/08	CM/08	CBe/08	CB/08	CP/08	
7	CN/07	CA/07	CM/07	CBe/07	CB/07	CP/07	
6	CN/06	CA/06	CM/06	CBe/06	CB/06	CP/06	
5	CN/05				CB/05		
4	CN/04				CB/04		
3	CN/03						

実際の染め上がりの色は、地毛によって異なります。

表記の見方

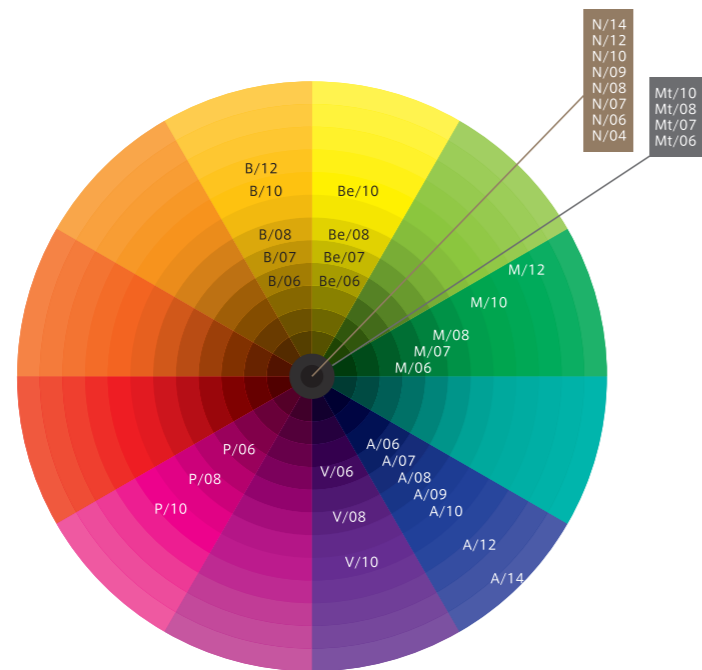
CA/08

CA : コンフォートアッシュ (色相)
08 : レベル (仕上がりの明度)



TINT : 白毛束を染めたイメージ
COLORED : 黒毛束を染めたイメージ (FASHION)
白髪 30% を染めたイメージ (COMFORT)

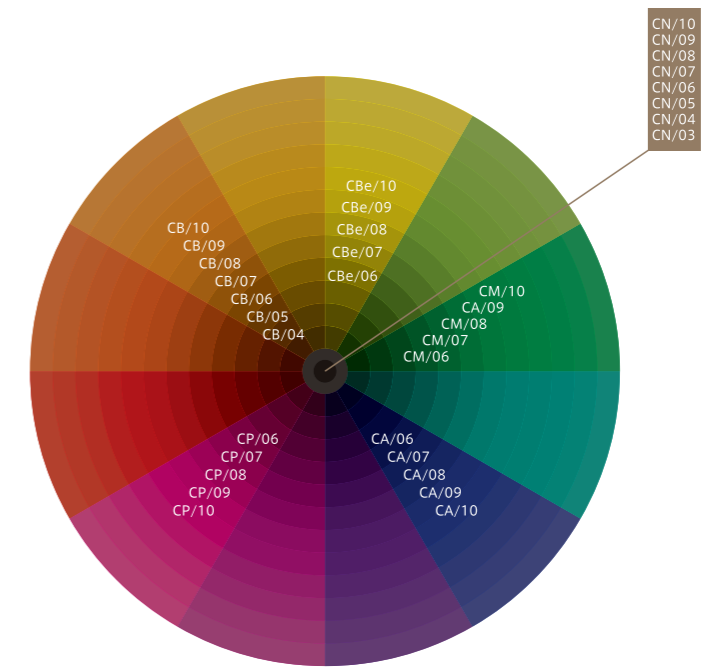
FASHION COLOR



もっと自由に、もっとクリアに。

思い通りのヘアカラーを1本で叶えるため、シアーで赤みの出にくい染料を何層も重ね合わせ、絶妙なニュアンスも表現できるようにしました。濁りや重さとは無縁の、やわらかい空気感をまとったクリアな仕上がりが実現します。すばやく伸びながら液だれしにくく、髪にしっかりとなじむ、とろけるようなテクスチャーにもこだわりました。毛髪への負担を最小限におさえ、施術時間もスピーディーに。カラーリングの時間ももっと快適になります。

COMFORT COLOR



自分らしさは、思い通りに更新できる。

世代を超えて自分のスタイルを思い切り楽しみたい。THROWは、そんなニーズに応えます。白髪と黒髪のコントラストを整えながら、ファッション感覚でヘアカラーを楽しむことを可能にしました。カラー直後はもちろん、褪せ時まで赤みをおさえ、自然でスタイリッシュな髪色をキープします。根元へのフィット力とやわらかさを両立したテクスチャーは、リタッチやコーミング等の操作性にも優れ、快適にご使用いただけます。

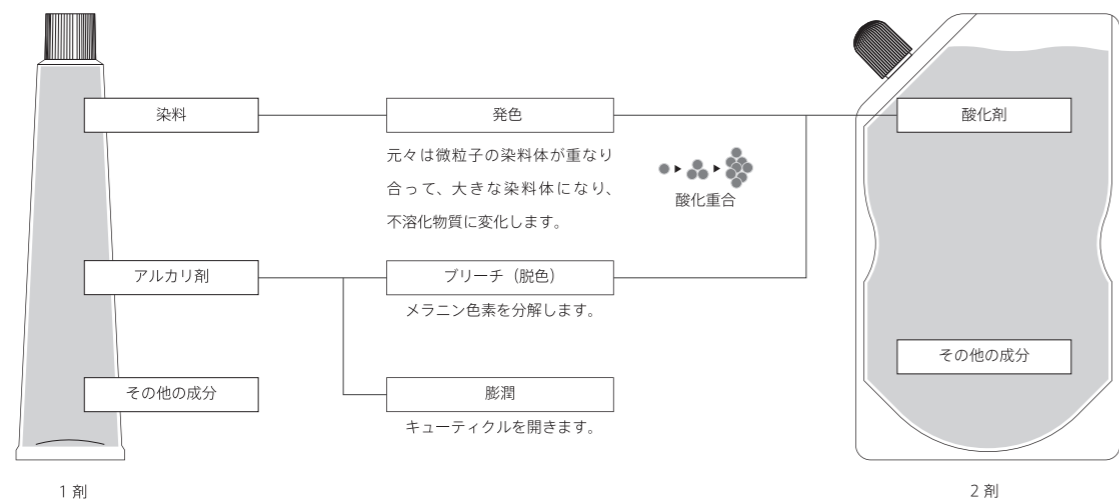
Hue	TINT(8Lv)	Hue	TINT(8Lv)
N ナチュラル	赤みを抑えたクールナチュラル	A アッシュ	クリア感のあるブルーアッシュ
Mt モノトーン	クリア感のあるグレイッシュ	M マット	やわらかさのあるマット
Be ベージュ	まろやかなイエローベージュ	B ブラウン	自然な暖かみのあるナチュラル
P ピンク	はなやかなピンク	V ヴァイオレット	グロッキーなヴァイオレット
Blue ブルー	鮮やかなブルー/色みを調整します	Green グリーン	鮮やかなグリーン/色みを調整します
C/14 クリア	明るさと濃さを調整します	C/00 クリア	濃さを調整します

Hue	TINT(8Lv)		白髪 10%	白髪 30%	白髪 50%
CN/08 コンフォートナチュラル	赤みを抑えたナチュラルブラウン				
CA/08 コンフォートアッシュ	クリア感のあるアッシュブラウン				
CM/08 コンフォートマット	やわらかさのあるマットブラウン				
CBe/08 コンフォートベージュ	まろやかなベージュブラウン				
CB/08 コンフォートブラウン	自然な暖かみのあるブラウン				
CP/08 コンフォートピンク	はなやかなピンクブラウン				
CC/12 クリア	明るさと濃さを調整します				

アルカリカラーの基礎知識

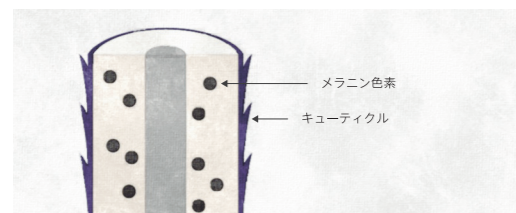
希望の色、明るさ、質感までも自在にコントロールするためには薬剤本来の性質（特長）を知る必要があります。
ここではTHROW（アルカリカラー）の特長を確認します。

アンダーカラーの変化



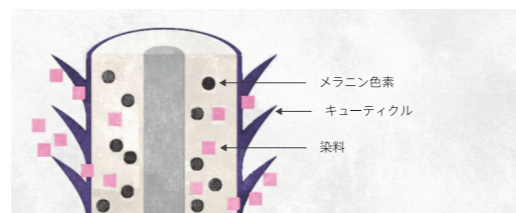
染毛メカニズム

1. 塗布前の状態



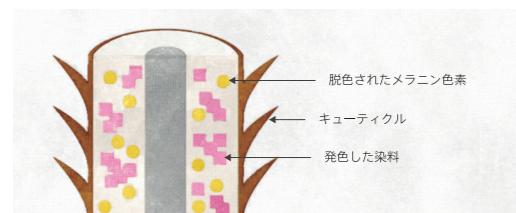
1 剤と 2 剤を混合し、乾いた髪に塗布します。

2. 毛髪の膨潤と染料の浸透



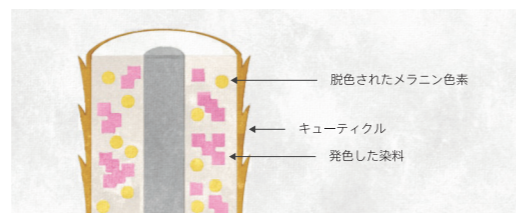
1 剤中のアルカリ剤がキューティクルを開き、染料などが髪の内部へ浸透します。

3. メラニン色素の脱色と染料の発色



1 剤中のアルカリ剤と 2 剤中の過酸化水素によって発生する酸化力でメラニン色素を脱色し、同時に染料を発色させます。

4. 染料の定着



発色した染料の分子はくっつき合い、元より大きくなります。そのため染料はキューティクルのすき間から出にくくなり、髪の内部に閉じ込められて色が定着します。

トーンダウンの基本的な考え方

褪色した（明るい）髪をトーンダウン（暗く）するためには、希望の明るさの髪が本来持つ色（アンダートーン）に近い色を足しながらトーンダウンする必要があります。
髪はブリーチされる際、明るくなるにしたがってレベルスケールのように茶色が薄くなり透けていきます。
またレベルが高くなるにつれ、赤→赤橙→橙→橙黄→黄→薄黄とアンダートーン（残ったメラニン色素）も変化していきます。

アンダーレベル（レベルスケール）

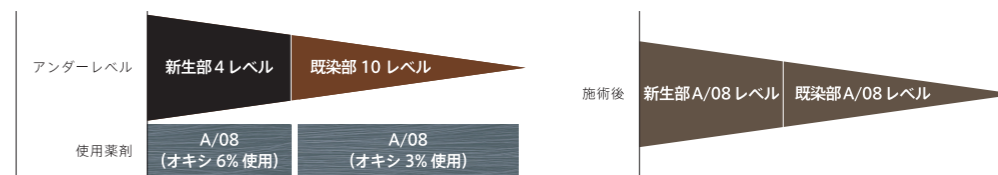


既染部のトーンダウン薬剤選定（目安）

褪色してしまった既染部（現在の明度）から希望のレベルへ移動（トーンダウン）させる場合には、以下の表を参考に薬剤選定をすると便利です。
下表はファッションカラーでトーンダウンするときの染料濃度の目安です。
※下の表は一定の髪の条件下での目安です。髪質、求める色み、ダメージ度合により、多少誤差が生じる場合があります。
※ページは淡く見えることを考慮して、ひとつ下のレベルを選定してください。

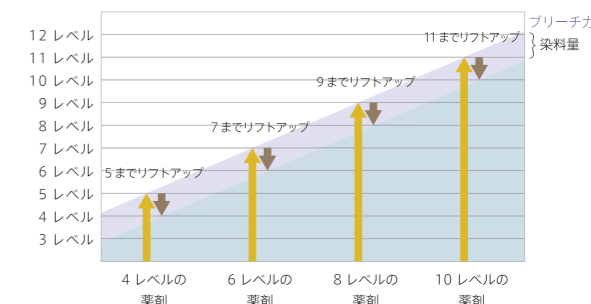
希望の明度 (レベル)	14	13	12	11	10	9	8	7	6
14									
13	/12								
12	/10	/10							
11	/09	/09	/10						
10	/08	/08	/09	/10					
9	/07	/07	/08	/09	/09				
8	/06	/06	/07	/08	/08	/08			
7	/05	/05	/06	/07	/07	/07	/07		
6	/04	/04	/05	/06	/06	/06	/06	/06	
5	/04	/04	/04	/05	/05	/05	/05	/05	/05

トーンダウン参考例



1 剤の明度別に見るブリーチ力と染料の関係

ヘアカラー剤（1 剤）は明度が上がるほど薬剤に含まれるアルカリ剤は多くなります。そのため明度が低いほどブリーチ力は小さく、明度が高くなるほどブリーチ力は大きくなります。
染料量はほぼ一定で、染料の組み合わせにより、色調や濃さを調整しています。



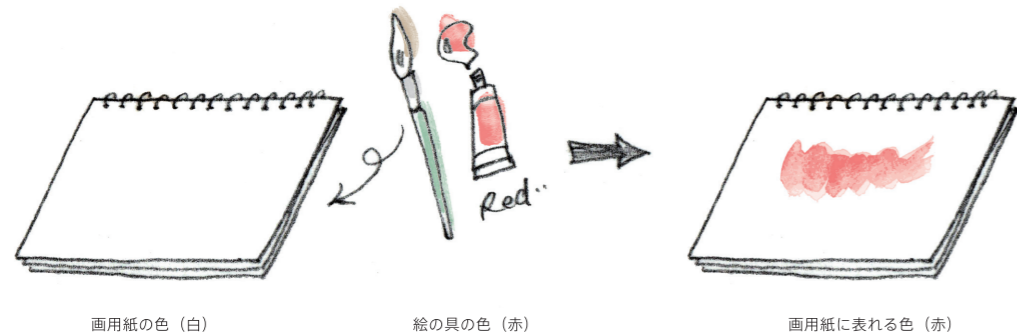
カラーコントロールの基本的な考え方

白い画用紙の上に絵の具で絵を描くと使った色がそのまま付きますが、ヘアカラーに関しては違います。

ヘアカラーは黒や茶色といった、髪の色（アンダーカラー）の上にカラー（色）をのせていくため、画用紙+絵の具のように単純に“使用した色=求めた色”にはなりません。毛髪の色や薬剤の特性を理解し、カラーコントロールをしていくことが大切です。

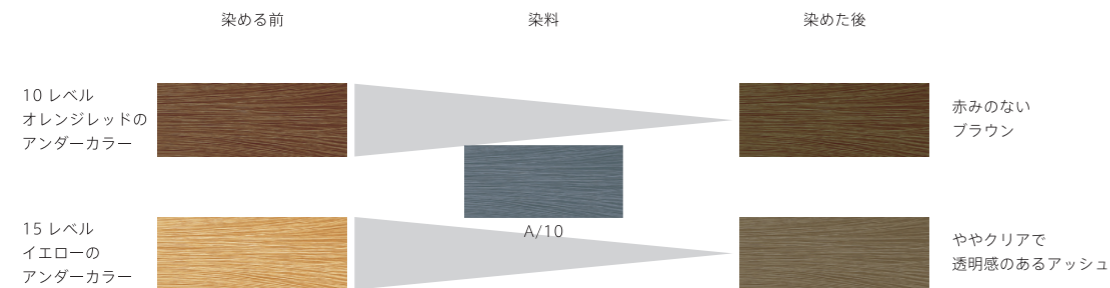
画用紙の場合

白い画用紙の上に絵の具をのせると、そのままの色が見えます。



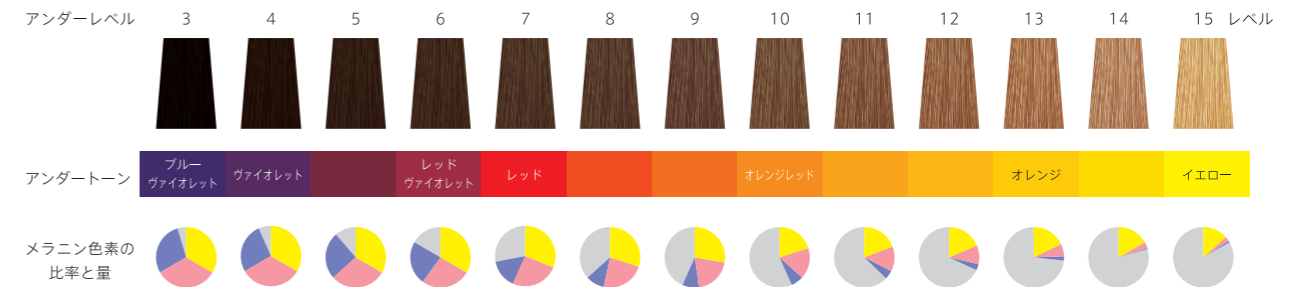
ヘアカラー（酸化染毛剤）の場合

同じ薬剤を髪の色が違う髪に使用すると、使用した薬剤とそれぞれの髪の色、双方が影響した色になります。



アンダートーンに見るメラニンの見え方

黒髪をブリーチして見えてくる髪の色味をアンダートーンといいます。アンダートーンのもとであるメラニン色素は赤・青・黄の要素で構成されており、ブリーチの際は青、赤、黄の順番に破壊、脱色されていくので、髪は明るくなるにつれブルーヴァイオレットからヴァイオレット、レッドを経てオレンジ、イエローに近づいていきます。



アンダーレベルに見る色の見え方

※各色相8レベルの薬剤を使用しています。

	アンダーレベル	N/08 ナチュラル	A/08 アッシュ	Mt/08 モノトーン	M/08 マット	Be/08 ベージュ	B/08 ブラウン	P/08 ピンク	V/08 ヴァイオレット
15									
14									
13									
12									
11									
10									
9									
8									

コンフォートカラーについて

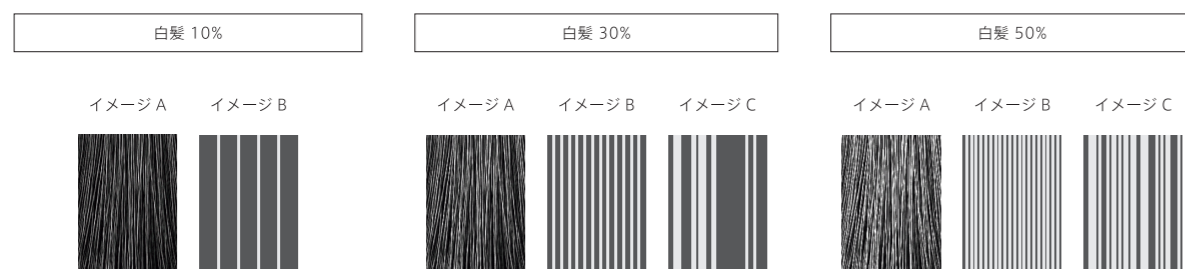
コンフォートカラー*とは、白髪のある方向へのヘアカラーです（P11 参照）。

コンフォートカラーは求める明るさと白髪量を考慮して薬剤を選定することが重要です。一口にコンフォートカラーと言っても、世代やライフスタイルやファッションスタイルにより、求めるニーズもその為のアプローチも異なります。

*白髪に悩む女性を元気付けるヘアカラーを目指し、白髪染めやグレイカラーと呼ばずコンフォートカラーと名付けました。

白髪量の違いによる見た目のイメージ（印象）

黒髪の中に白髪がどのくらいあるか（量）によって、その人の見え方（印象）は変わります。また同じ量でも分布の仕方によって、見え方（印象）も異なってきます。白髪量や現在の自毛の明るさ、お客様のニーズなど総合的に判断した薬剤設定が必要になります。



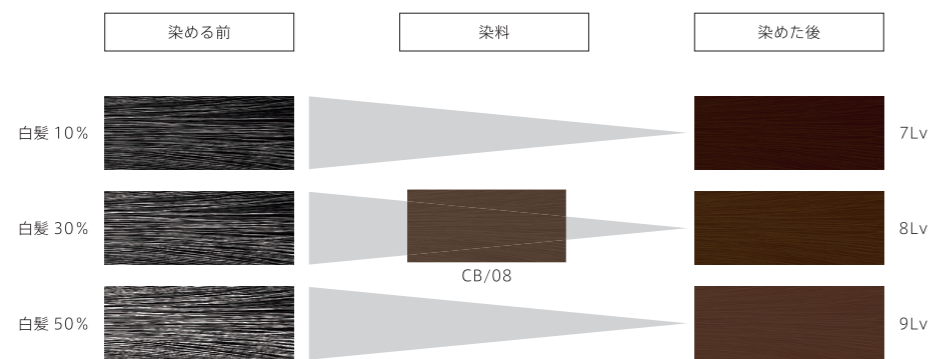
頭髪全体に対する白髪の割合が10%程度であれば、見え方（印象）はほぼ黒髪に見えます。ちらほらと白髪が混じっているのが分かる程度です。このくらいの量では、分布の仕方が異なってもそれほど見え方（印象）は変わりません。ファーストグレイ世代（30～40代）が主に該当します。このグループは、明るさや色みを楽しみたい方も多いので、ファッションカラーの延長線上で明るさや色みをしっかりと表現しつつ、黒髪と白髪のコントラストを調整することがポイントです。

白髪の割合が30%近くになると、10%のときに比べ、白髪の影響ははっきりしてきます。この段階になるとまだ黒髪の影響はあるものの、白髪を意識せずにはいられない状態になります。また、イメージCのように分布が一部に密集すると、実際より白髪が多いように感じることもあります。このグループは、コンフォートカラーのボリュームゾーンです。ファッション性と白髪カバーの両立がポイントとなります。

黒髪と白髪が50%ずつになると、見え方（印象）としては実際以上に白に引き寄せられます。50%くらいになると、分布が偏ってもそれほど見た目の印象は変わりません。このグループは、年齢を重ねるにつれ「白髪を活かす」方が多くなります。また、徐々に顔色がくすみやすくなるため、彩度設定がポイントになります。

白髪量による仕上がりの違い

白髪染めは同じ薬剤を使用しても、白髪量によって実際の仕上がりに違いが出ます。白髪は黒髪よりやや明るく染まり、黒髪は白髪よりやや暗めに染まる為、白髪量が少ないほど暗く感じ、逆に白髪量が多いほど色みと明るさを感じます。



*CB/08 で染毛したイメージ

毛髪診断

髪の状態によってヘアカラーのコントロール方法が変わります。まずは、髪がどのような状態かを確認（視診・触診・ヒアリング等）しましょう。

1-1. 髪質の見極め方

新生部を確認（診断）し、明るくなりやすい髪質なのか、なりにくい髪質なのかを判断します。

髪質は「硬さ」・「太さ」・「撥水性／吸水性」の要素を合わせて総合的にその髪の「質」を判断します。

硬さ	単位	硬い～柔らかい	詳細	＜キューティクルの厚み＝弾力の有無＞ 毛束を指で丸めて跳ね返り度合いを確認します。
	判断方法	触診		
太さ	単位	太い～細い	詳細	髪の太さ（細い・太い）を判断します。
	判断方法	視診・触診		
撥水性	単位	撥水～吸水	詳細	水分をはじきやすい髪（撥水性）か、吸収しやすい髪（吸水性）かを確認します。 ＜キューティクルが厚い（親油性高 / 油分多）＝撥水しやすい＞ ＜キューティクルが薄い（親油性低 / 油分少）＝吸水しやすい＞ 地肌が脂性か乾燥性か？ スプレーヤーなどで水を噴きつけ、肌の状態を確認します。 ＜脂性＝水分をはじきやすい＞ ＜乾燥性＝水分を吸収しやすい＞
	判断方法	視診・触診		
白髪	単位	量・分布（場所）	詳細	白髪の量やどのあたり（部位）にあるか確認します。
	判断方法	視診		

1-2. 髪質判断による傾向と対策（ヘアカラーの場合）

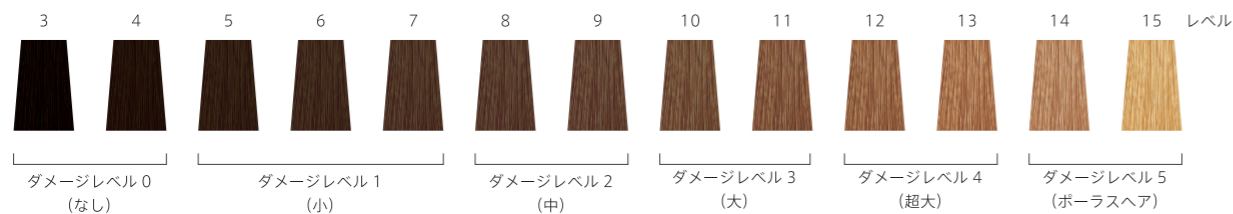
髪質の要素	
硬い・太い・撥水性	柔らかい・細い・吸水性
▼	
診断からの傾向（仮説）	
明るくなりにくい（染まりにくい）髪	明るくなりやすい（染まりやすい）髪
▼	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ● 1剤のレベルを希望より1レベル高めを選択する。 ● 2剤の濃度を上げる。(6%) ● スライス幅を薄めに取り、多めに塗布する。 ● 放置タイムはやや長め。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1剤のレベルを希望より1レベル低めを選択する。 ● 2剤濃度を下げる。(3%) ● ファッションカラーの時は、根元に薬剤がたまらない様に注意する。 ● 放置タイムはやや短め。

2-1. ダメージレベルの見極め方

既染部を確認（診断）し、ダメージ度合を見極めて、薬剤選定・事前処理の必要性等を判断します。

明るさ	単位	明るい～暗い	詳細	毛束を取り出し、髪のとけ感を確認し、レベルスケールで明度を確認します。
	判断方法	視診		
パサつき 髪の重さ	単位	重い～軽い	詳細	毛先の広がりやハネ具合を見たり、軽く髪を持ち上げたりして重さを確認します。
	判断方法	視診・触診		
ツヤ 手触り	単位	有無	詳細	指に髪を挟んで滑らせて新生部と既染部を比較します。
	判断方法	視診・問診		
ダメージ レベル	単位	有無	詳細	アンダーレベルの明度に応じてダメージレベルを判断します。
	判断方法	視診		

2-2. ダメージレベルに合わせた事前処理やケアのポイント



ダメージレベル 1～2	ダメージレベル 3～4	ダメージレベル 4～5
毛髪の状態に応じて、適宜、事前処理剤を選択し、ダメージ部のコンディションを整えましょう。	染料の吸い込みや発色後の染料流出をしやすい状態ですので状況に応じて事前と事後双方でダメージをしっかり補修しましょう。	色もくすみやすくなり、染料流出も多くなります。髪もハリがなく、切れやすい状態ですので髪内部に栄養補給すると共にキューティクル補修もしっかりと施し、染料の流出も抑制しましょう。
その他のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ● アンダーレベルが低くても、パサついて髪が軽くなっていたり、手触りがザラつきツヤがない場合は、ダメージレベルが高い場合があります。問診などをしっかり行い、ダメージレベルを見極めます。 ● ダメージレベル 3～4 は薬剤（染料）の吸い込みが早くなりやすいため注意が必要です。 ● ダメージレベル 4 は吸い込みやすく、染料自体の流出（色落ち）も早く、色もくすみやすいです。 ● ダメージレベル 5 は染料の定着が極めて悪く、カラー施術直後から流出が始まり、褪色スピードが早いです。 		

3-1. 残留ティント（染料）の見極め方

ティント（染料）が残っているかどうかをチェックします。残っている場合は暖色か、寒色かを見極めて、求める色への影響の有無を判断します。特に、前回のヘアカラーから3ヶ月以内であればティント（染料）が残留している可能性が高いです。髪の中間部分が一番多く残留しやすく、毛先に行くほど残留量が少なくなります。

残留 ティント	単位	有無／多い～少ない	詳細	新生部と既染部の境目や毛先の色で判断します。 今までの施術履歴を確認します。 【期間（〇ヶ月前）、色相（暖色～寒色）、濃い～薄い、明度、彩度など】
	判断方法	視診・問診		

3-2. 残留ティント診断による傾向と対策（ヘアカラーの場合）

残留ティントと求める色	
残留ティントと求める色の色調を確認します。 同じ色調であれば残留ティントを活かし、違う場合は残留ティントを「削る」「打ち消す」施術や薬剤選定が必要になります。	
残留ティントを「活かす」場合	残留ティントを「削る」「打ち消す」場合
<ul style="list-style-type: none"> ● 残留ティントが求める色調と同じで求める色を出しやすい場合は、求める色調の薬剤をそのまま使用します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● メラニン色素を削ります。 (削りすぎや残留ティントが分解できない場合のトーンのスレに注意します) ● 補色でニュートラルブラウンに近づけます。 (明度が下がり過ぎないように色素量を残留ティントに合わせて調整します) <small>* 一回で補正できない場合は無理をせず、段階的なカラーチェンジをお客様におすすめしましょう。</small>

4-1. パーマ履歴の見極め方

パーマの履歴（状態）を見て、ヘアカラーの色み（染料）の入りやすさを判断します。

パーマ 履歴	単位	有無	詳細	見ただ目でパーマ（ウェーブ、ストレート、縮毛矯正）の有無を確認します。 （ドライ&ウェット両方） 過去の施術内容（時期や種類等）をカウンセリングで確認します。
	判断方法	視診・問診		

4-2. ヘアカラーにおけるパーマへの傾向と対策

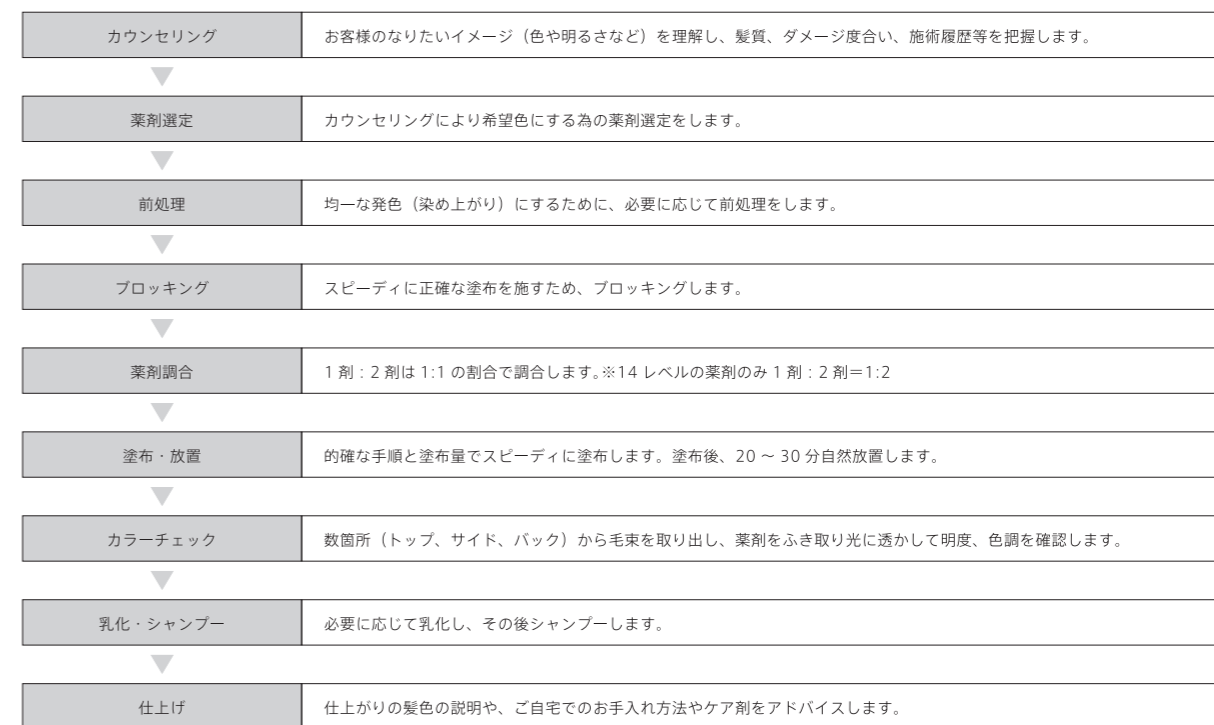
パーマ履歴診断からの傾向（仮説）	
縮毛矯正毛やデジタルパーマ毛は明度が上がりにくい	ハードパーマは染料を吸い込みやすい
▼	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ● 1剤の明度は希望より1レベル高めを選択する。 ● 2剤濃度を上げる。(6%) ● 既矯正部や毛先の発色状態を見ながら根元を塗布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● クリア剤などを使用するなど、染料濃度を調整する。 ● 事前処理を施す。

5. メラニン色素の見え方と特長

求める色にヘアカラーするための適切な薬剤選定には、メラニン色素の見え方を理解することが大切です。

メラニンのタイプ	赤み	黄み	青み	灰み
特長	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本人に多い ● 硬く太い髪に多い ● カラーが反応しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 細く柔らかい髪に多い ● カラーが反応しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 太く硬い髪に多い ● カラーが反応しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 細く、柔らかい髪に多い ● 日本人には少ない ● カラーが反応しやすい ● 染料が残りにくい
見た目（視診）の印象	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体に赤みを感じる ● 透け感が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> ● ドライ（乾燥）感がある ● 透け感が強い ● 黄味が目立つ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 赤みを感じない ● 黒く見える髪に多く含まれる ● 透け感が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 寒色感やドライ（乾燥）感がある ● 透け感が強い
明度を上げる（リフトアップの）注意点	<ul style="list-style-type: none"> ● ブリーチされにくい ● リフトアップすると赤みが出る 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブリーチされやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブリーチされにくい ● 透明感が出にくい 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブリーチされやすい ● 寒色に傾きやすい
明度を下げる（トーンダウンの）注意点	<ul style="list-style-type: none"> ● 明度を下げる場合は暖色系（暖かみのある色）で 	<ul style="list-style-type: none"> ● 明度を下げる場合はややくすみのある色で 	<ul style="list-style-type: none"> ● 明度を下げる場合は暖色系（暖かみのある色）で 	<ul style="list-style-type: none"> ● 明度を下げる場合はややくすみのある色で
色み表現の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ● 赤みを表現しやすい ● 低明度での寒色系が表現しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幅広い色み表現が可能 ● 色に透明感が出る ● 希望色より明るくなりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 深みのある色を表現しやすい ● 寒色系は暗めに出やすい ● くすみのない色を選択する 	<ul style="list-style-type: none"> ● マット系は濃く出やすい
適している質感表現	<ul style="list-style-type: none"> ● うるおいのあるツヤ ● 深みのあるツヤ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 透明感のあるツヤ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 深みのあるツヤ 	<ul style="list-style-type: none"> ● まるやかさ ● 透け感のあるツヤ
適さない質感表現	<ul style="list-style-type: none"> ● 透明感のあるツヤ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 深みのあるツヤ 	<ul style="list-style-type: none"> ● うるおいのあるツヤ 	<ul style="list-style-type: none"> ● うるおいのあるツヤ

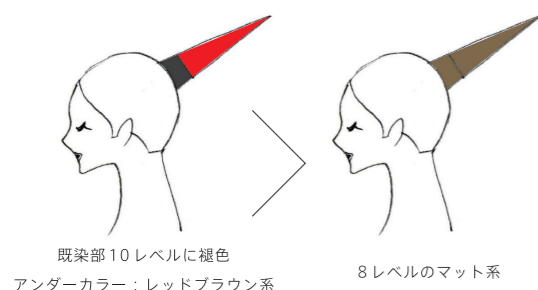
ヘアカラー基本プロセス



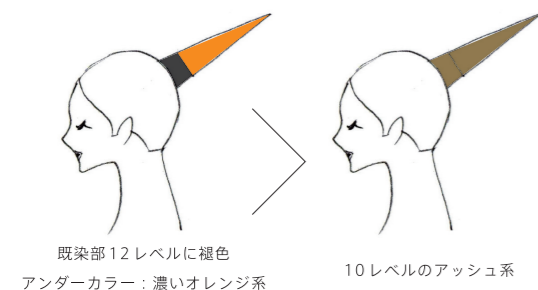
CASE STUDY

FASHION COLOR

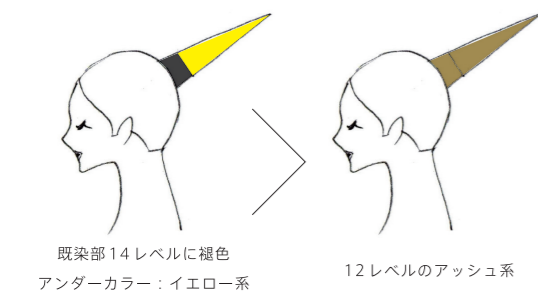
case 1. 希望色と既染部の明度差があまりない (2レベル以内) 場合



- ① 新生部に M/08 (オキシ6%使用) の薬剤を、ディバイディングライン (境界線) よりやや上まで塗布します。
- ② 既染部に M/08 (オキシ3%使用) の薬剤を塗布し、20分前後自然放置し、カラーチェックします。
- ③ 全体に色調・明度が整ったことを確認し、シャンプーします。

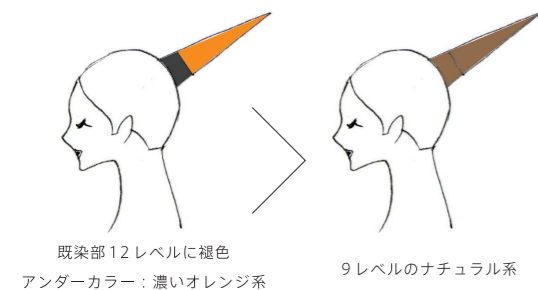


- ① 新生部に A/10 (オキシ6%使用) の薬剤を、ディバイディングライン (境界線) よりやや上まで塗布します。
- ② 既染部に A/09 (オキシ3%使用) の薬剤を塗布し、20分前後自然放置し、カラーチェックします。
- ③ 全体に色調・明度が整ったことを確認し、シャンプーします。



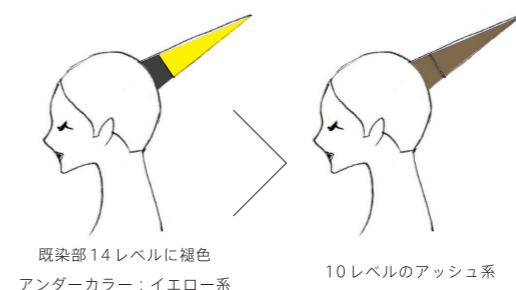
- ① 新生部に A/12 (オキシ6%使用) の薬剤を塗布します。
 - ② 既染部に A/10+Be/10=2:1 (オキシ3%使用) の薬剤を塗布し、20分前後自然放置し、カラーチェックします。
 - ③ 全体に色調・明度が整ったことを確認し、シャンプーします。
- ※ 11レベル以上の既染部を寒色系にトーンダウンする際は、Be (ベージュ) で足りないアンダーカラーを調整します。

case 2. 希望色と既染部の明度差がある (3レベル以上) 場合



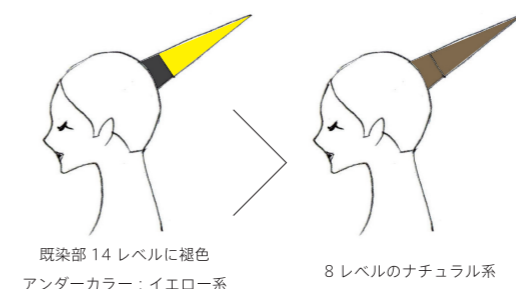
- ① 新生部に N/09 (オキシ6%使用) の薬剤を、ディバイディングライン (境界線) よりやや上まで塗布します。
- ② 既染部に N/08 (オキシ3%使用) の薬剤を塗布し、20分前後自然放置し、カラーチェックします。
- ③ 全体に色調・明度が整ったことを確認し、シャンプーします。

case 3. 希望色と既染部の明度差がある (4レベル以上) 場合



- ① 新生部に A/10 (オキシ6%使用) の薬剤を、ディバイディングライン (境界線) よりやや上まで塗布します。
 - ② 既染部に A/08+Be/08=2:1 (オキシ3%使用) の薬剤を塗布し、20分前後自然放置し、カラーチェックします。
 - ③ 全体に色調・明度が整ったことを確認し、シャンプーします。
- ※ 11レベル以上の既染部を寒色系にトーンダウンする際は、Be (ベージュ) で足りないアンダーカラーを調整します。

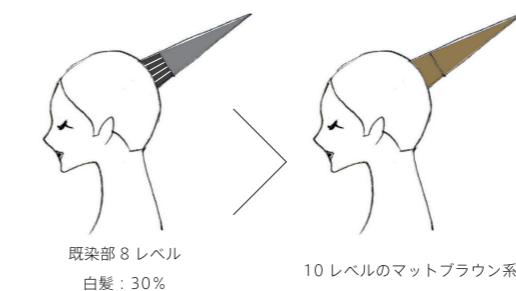
case 4. 希望色と既染部の明度差がある (6レベル以上) 場合



- ① 新生部に N/08 (オキシ6%使用) の薬剤を、ディバイディングライン (境界線) よりやや上まで塗布します。
 - ② 既染部に N/06+B/06=2:1 (オキシ3%使用) の薬剤を塗布し、20分前後自然放置して、カラーチェックします。
 - ③ 全体に色調・明度が整ったことを確認し、シャンプーします。
- ※ 既染部が11レベル以上で、希望色と6レベル以上明度差がある際は、B (ブラウン) で足りないアンダーカラーを調整します。

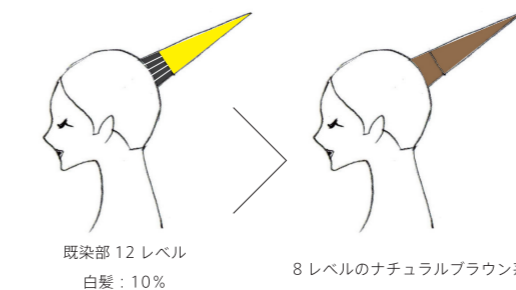
COMFORT COLOR

case 1. 既染部のトーンアップの場合



- ① 新生部に CM/10 (オキシ6%使用) の薬剤を、ディバイディングライン (境界線) よりやや上まで塗布します。
- ② 既染部に CM/10 (オキシ6%使用) の薬剤を塗布し、20分前後自然放置し、カラーチェックします。
- ③ 全体に色調・明度が整ったことを確認し、シャンプーします。

case 2. 既染部のトーンダウンの場合



- ① 新生部に CN/08 (オキシ6%使用) の薬剤を、ディバイディングライン (境界線) よりやや上まで塗布します。
- ② 既染部に CN/08 (オキシ3%使用) の薬剤を塗布し、20分前後自然放置して、カラーチェックします。
- ③ 全体に色調・明度が整ったことを確認し、シャンプーします。